

---

# セ・ン・ス

桐谷 優牙

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

セ・ン・ス

### 【Nコード】

N6381U

### 【作者名】

桐谷 優牙

### 【あらすじ】

和洋の入り交じった世界で、一大勢力を誇る「プロワ王国」。この国の秘宝をねらうべく、復讐に燃える怪盗が居た。狙うべき秘宝は「聖ランシス」略称「センス」。この秘宝をめぐる争う、魔法怪盗SFファンタジー。

## スタート・オブ・ファイト

「大変です！！国王！怪盗から…こんなものが！！」

下っ端兵士が紙切れを持って王に近づく。

この王、見た目はさほどではあるが、人望も厚く、国を想う気持ちもあるのだ、

国民からは慕われている、リィダン＝スタレット国王である。

「怪盗だと…？」

国王はそう呟きながら兵士から紙切れを受け取る。

「……………！！すぐに重臣を集める！」

「はい！！」

ほどなくして、王の間には人々があふれかえっていた。

と言っても、ただの人々ではない。

国民から慕われる王の認めた優秀な重臣ばかりだ。

「まずいことになった。」

「国王、どうされたので？」

「これを見る、キトウ。」

キトウと呼ばれた老人は黙って、差し出された紙切れを受け取る。

「…こ…これは！」

「いったいどうされたのです…！」

「我が国の秘宝を…今夜、怪盗が盗みにくるらしい…。」

「…！！」

「なんだ、そんな事か。」

重臣の沈黙を破るように、私語が王の間にこだました。

全員、一斉に声の方向を見る。

そこに居たのは、現国王の息子、リ＝ダン＝レクシア皇子だった。

柱に体重をかけて、両目をつむったままにいる。

「たかがパツと出風情の怪盗だろう。捕まえてしまえば良い話だ。」

この一言に重臣たちはザワつく。

そっだ…。

…なにを怯える事がある、…なにを恐れる事がある。

確かに…警戒していれば問題ないだろうに。

「まあ、聞けレクシア。この国に伝わるロワイヤ都市伝説は知ってるな？」

「当たり前だ。あの話をこの国で知らない輩の方がいないだろ。」

「では、説明してみせよ。」

「…。」

レクシアは髪の毛を一度掻き上げると、語り始めた。

ブロワ王国に伝わる話。

ある代の国王が、城の前に捨てられていた孤児を自ら望んで引き取り、

我が子のように可愛がって育てた。

なぜなら、国王の妻は不治の病にかかっていたのだ。

彼女の望みは、子供を育てること。

だから国王は、たとえ汚らしい孤児であること、

自らの手でその子の体を洗い、服を与え、学問を教えた。

そして、孤児は国で一番賢いと言われる少年へと成長した。

事件はその二年後に起こる。

事もあるうちに、少年は自分を育ててくれた国王の妻を殺害したのである。

当然、国王は激怒した。

少年は裁判にかけられ、出た判決は「三年間断食刑」。

少年を城の地下深くに幽閉すると、国王は二度と少年に会いに行くとはしなかった。

そして、あつという間に三年の月日が経った。

飲まず食わず、当然少年は死に至ったであろうと、誰もが思った。

しかし、幽閉されたはずの少年は牢屋にはおらず、

それどころか牢屋は怪物に襲われたかのように半壊状態になっていた。

それからである、プロワ王国各地で、少年怪盗が現れるようになったのは。

怪盗は奇妙な術を使い、盗みを成功させていった。

ただ、国の秘宝を盗みにきたときだけは、優秀な術者と互角に戦った末、

盗むこともできず、そのまま消えるように去って行った。

そして、その後、怪盗がどうなったか知るものはいない。

「…って話だったハズだが？」

「…それでは、その少年怪盗の名を覚えているか？」

「…？名前は聞いた事が無いな。何だ、名前がどうかしたのか？」

「シロドラ…でいいます。」

親子の会話に口を挟んだのは、キトウであった。

「そっ…シロドラ……。」

「…それで、それがどうしたというんだ。」

「これを見るレクシア。」

そう言うと、国王は初めて紙切れをレクシアに差し出した。

レクシアは柱から離れると、無言で紙切れを受け取る。

「今宵、以前の恨み晴らすべく、

貴国の秘宝、頂きに参る」

文末を見る。書かれているのは…

「シュリムShullia」

「……………!!」

そして、空が白み始めた頃、

沈む夕日と重なるように、小さな影が一つ。

「…始まりだぜ…。」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6381u/>

---

セ・ン・ス

2011年10月9日07時30分発行